

山本山手コミュニティ第3回対話に向けた協議（議事録）案

【日 時】令和5年5月11日（木）19時30分～22時00分

【場 所】C o K oセンター

【出席者】

山本山手コミュニティ：米田氏（政策室長）、大石氏（事務局長）、北川氏（代表補佐）、
紀村氏（広報・IT室、一般会計）、末永氏（総務）

<オンライン>奥野廣明氏（代表補佐）、奥野順子氏（わいわい館会計、福祉部）

宝塚市：柳田（協働の取組推進担当次長）、江崎（生活安全室室長）、阪上（道路維持管理担当課長）、
新城（市民協働推進課課長）、岡田（市民協働推進課係長）、玉田（市民協働推進課）

1 参加者自己紹介

2 前回までの振り返り

危険箇所10箇所のうち4箇所は解決済みであるが、6箇所は解決に至っていない。

北公園前で事故が続いており、緊急性が高いため、第3回目は北公園前道路に焦点をあてて対話をする。

今日は第3回目対話に向けた事前協議とする。

3 北公園前道路におけるカラー舗装の実施についての認識の共有

- (1) （まち協）第2回対話ではカラー舗装の実施についての回答は保留としていた。2022年3月副代表者会議で自治会にカラー舗装について説明。4月の副代表者会議で自治会から回答をもらいカラー舗装を実施しないこととなった。その後、4月の運営委員会で自治会から反対の意見が出たことを説明。5月の運営委員会では市職員の発言が議事録に記載されていることから必ず会議に出席していると思うが、その際にも自治会の反対意見は説明済みであり、地域側は市にカラー舗装はしないと伝えていた。今後はこれを共通認識としたい。
- (2) （市）「4月の副代表者会議で話し合った結果、自治会の回答はカラー舗装を実施しない」というコミュニティの認識を市側は、正確に把握できていなかった。カラー塗装に関する自治会の回答は承知した。
- (3) （まち協）1月21日の舗装修繕工事説明会の中では、山手台東5丁目の1人の住民からは「カラー舗装については聞いていない」などの声があったのは事実である。年度がかわり自治会役員のメンバーも変わっており、改めて市からカラー舗装について提案があった際は、改めて問いかけることもありかと思う。

4 警察との協議状況

- (1) （まち協）市議会での答弁もあったと思うが、警察と市との協議状況について共有してほしい。
- (2) （市）1/21の説明会で説明した内容と同様となる。警察と安全対策について協議した結果、1点目として、再度、地域の方にカラー舗装を提案してみてもどうかと警察から市へ提案があり、市（道路管理担当）も同じ意見だった。2点目として、看板の2箇所追加設置について市は警察からアドバイスを受け、検討している（①北公園近くの電柱が折れたところ②まだ看板がついていない電柱）。市での追加設置の対応が可能であり、看板の文言は地域と相談をした上で、設置したいと考えている。警察からの提案箇所以外でも設置可能である。やはり視覚での注意喚起が必要だと考える。

5 警察が保有する事故情報

- (1) (まち協) 事故情報についての話はないのか。第 1、2 回対話では事故情報の認識がどうなのか、事故情報の取得については強く伝えていた。
- (2) (市) 3 月の議会答弁で説明した情報であるが、昨年 9 件、今年 2 件の事故情報は把握している。また、市が把握している事故情報は物損事故の情報しかない。1 月に警察と協議した際は、市と警察が連携して事故対策に努めることとなっており、警察からは事故多発箇所の取り締まりを強化すると聞いている。市から警察へ事故情報の開示を求めたが、警察からは個人情報があるためすべての情報は開示できないという話だった。
- (3) (まち協) 前回の舗装工事で事故は少なくなっていると思う。一方で、事故が減っている感覚はあるが、実際のところは情報がないと分からない。道路が舗装されたことで走行しやすくなり、逆にスピードが上がりやすくなるし、実際にスピードは上がっている感覚がある。地域側は事故件数と原因が知りたい。コミュニティ広報紙に事故の発生を掲載し、広報たからづかと併配して危険を知らせている。警察がなぜ個人情報であるから事故情報を公開できないと言っているのか知りたい。地域側は個人名等の情報は必要ない。
- (4) (市) 警察からは、個人情報にかかわるので事故情報は出せないと言われている。
- (5) (まち協) 人身事故については昨年度から、地域が依頼して市を通して警察に情報を出してもらおう形ができ、1 歩進んでいる。しかし、人身以外の事故情報、その事故の原因、以前の事故件数と現在の事故件数などの情報が必要。市の事故情報の捉え方はどうなのか。市は事故情報を集めようとしているのか、していないのか。事故情報がなければ原因追及はできないと思う。そのような状態でカラー舗装をしようとしているのか。12 月の市議会で副市長は「市道 3259 号で事故が多いのは把握している。警察とも連携して原因究明をする」と話をしている。第 3 回の対話で市の事故情報の捉え方がどうなのかを質問する。
- (6) (市) 改めて警察と話をする。
- (7) (市) 法定速度で走行をすれば起きえない事故だが、現実として事故が起きているので対策が必要であり、今回舗装修繕工事を実施。また、歩道にガードレールが設置されていない箇所についてはガードレールの延長を 6 月に予定している。情報の重要性も認識している。

6 カラー舗装の実施

- (1) (市) 最近では、中山五月台 7 丁目マンション周辺道路にカラー舗装をした。横断歩道もあったため看板の設置も行った。
- (2) (まち協) もし、市からカラー舗装を改めて提案するのであれば、他の地域の例（設置場所、設置理由、舗装後判明している問題点）や、実際に設置する舗装の幅、音の大きさといった客観的な数値等の情報も知りたい。提案するのであれば、その情報を市道 3259 号周辺住民に伝えた上で今後の方針を検討したい。事例を提示していただくと検討材料になる

7 事故情報・カラー舗装以外の確認事項

- (1) (まち協) ケーブルテレビ用のマンホールが道路の真ん中にある箇所がある。落下物と勘違いして避けた際に事故が起きているということはないか。現在は舗装されてマンホールと道路の色が似ているため、事故の要因になりにくくなったと思う。マンホールと道路補装の色が違くと事故が起きやすいという事実があるのかどうか、警察と話をする際にこの点も聞いてほしい。
- (2) (まち協) 舗装修繕工事のときに業者が測量をまめにしてくださっている様子だった。説明会での住民の声を

聴いて、今回の工事で逆バンクを改善していただいたのかもしれないと思っている。実際に車や自転車で走った感覚では補装後、走りやすくなっているという実感がある。工事前の情報と工事後の情報でこれだけ改善されたという定量的なデータがあれば調べておいて欲しい。

- (3) (まち協) コミュニティだよりも市からのメッセージ、舗装工事前後の写真等の掲載や市からのメッセージの掲載は可能か。市が市民と協働で取り組んだ事例などを PR したうえで、新たな対策を提案するなら住民も分かりやすい。
- (4) (まち協) 地域から市に働きかけた要望した結果このように改善しましたといった記事をコミュニティ広報紙に掲載できれば担い手の確保にもつながると思う。アピールしたいと思っている。
- (5) (市) コミュニティ広報紙等に市のメッセージを掲載することは可能。

8 北公園前事故対策について目途が立った後の対話内容

(まち協) 長尾山トンネルから左折する車が多く、中山五月台の方面からくる車は右折信号がないため右折ラインにいる車が 1 台しか右折できない。1 回に右折できる車が少ないため信号無視をしている車もいる。土日、平日朝は交通量が多いため危険。この箇所も今後対話していきたい。

9 市の認識・対応

- (1) (まち協) 3 回目の対話は根本解決となる対話を望む。議会答弁をした副市長と必ず話をして欲しい。
- (2) (まち協) 市道 3259 号の事故は発生件数から見て、道路管理担当のなかでの対応優先順位は高くないのか。コミュニティは市に対して「正確な事故原因を分析して早急に根本的な安全対策に取り組む」ことを希望する。
- (3) (市) 市域すべてにおいて、事故を減らしていくことが重要。
- (4) (まち協) 他のまち協のまちづくり計画で同様の内容はないのか。
- (5) (市) カーブミラーの設置や舗装等、道路環境に関する案件はある。
- (6) (まち協) 山本山手コミュニティとしては、この市道 3259 号の事故問題を大きな課題と捉えている。市長、副市長と同じ認識をもって市職員も対応してほしい。

10 第 3 回対話に向けてのまとめ(本日の協議の振り返り)

(1) 事故情報

ア (まち協) 第 3 回対話での市への質問は、市は事故情報についてどんな考えをもっているか。事故情報についての考えとそれを踏まえて警察にどんな情報を開示請求し、警察からどのような回答があったのかを話してほしい。

イ (市) 市も事故が多発していることは重大な問題であると認識しているため、警察に事故情報の開示は求める。だが、警察は個人情報があるため開示できないという回答があるかもしれない。

ウ (まち協) そのような言い方をされると、市としては事故情報の必要性や事故が多発していることをそこまで重大だと思っていないと感じてしまう。市として事故情報を把握しないと対策は考えられないのではないか。本来、地域が情報をほしいのではなく、市として情報を得て分析すべきということ。個人情報なんて求めてない。例えば、地域には出せないけども市には出せる情報もあると思うし、情報の重要性を市としてどう考えるか。

エ (まち協) 結果、市として「無理でした」なら、市との対話はもうできない。話し相手を変えないといけない。

オ (市) どこまで出せるのか出せないのかといったところも含め、改めて警察と話す。

(2) 事故対策の提案

(市) 市が把握している事故情報、警察から開示された事故情報を踏まえて、やはりカラー舗装が最適な方法だということであれば、客観的に判断できるような情報や他地域での実績も含めて、提案する。

1 1 その他

(1) (まち協) 自治会アンケートの分析は進んでいるのか。いつ開示されるのか。

(2) (市) 現在進めている。開示時期は未定。

(3) (まち協) 紅葉公園(阪急オアシス前)周辺は、平成30年3月の産業建設常任委員会で道路認定を受けた。委員会の中で、「今後、住民が集まり自治会が成熟されていく状況において、道路アドプトもしくは公園アドプトなどの制度を検討していただくよう、地元の方々と連携を図っていきたいと考えております。」と発言をしているが、どうなっているのか。市から働きかけがあるように読めるが、市側が動くのか、地域から動かななくてはいけないのか。

(4) (市) 道路アドプト、公園アドプトとあり、所管が異なり詳細が分からない部分もあるが、市からの働き掛けは確かにしていないと思う。

(5) (まち協) 植え込みの管理等について住民が問い合わせても「市ではできません」で終わり、フラストレーションがたまる。アドプトの制度の説明までしてくれたらいいのと思う。自治会長や役員も1~2年で交代していく中で、市への要望の仕方が分からない。要望が必要だということを自治会に伝えていきたい。自分たちのことは自分たちで行動していく地域にしていきたい。

1 2 今後について

(1) 第3回の対話時期は7月。大石事務局長から市へ候補日時を3日ほど提示していただき、日程調整を進める。

(2) 本日の議事録は、市から北川代表補佐へ送付し、地域内への確認を依頼する。

【第3回対話の内容】

- ①. 事故情報の重要性に関する市の認識及び警察との調整結果について
- ②. 事故対策についての具体的な提案(カラー舗装を再度提案するのか等)について